

教育出版 音楽Ⅱ改訂版 Tutti (音Ⅱ 307)

年間指導計画・評価規準例

芸術科「音楽Ⅱ」 シラバス	単位数	2 単位	担当者	
	学科・学年・学級		科 第 学年 組	
	使用教科書・副教材等		音楽Ⅱ改訂版 Tutti	

1 教科の目標（講座のねらい）

- ・音楽の諸活動を通して、生徒が感性を働かせて個性豊かに表現したり主体的に味わって鑑賞したりする能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。
- ・音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに質的な価値を見いだせる感性を高める。
- ・音や音楽を知覚・感受し、思考・判断・表現する過程を通して、個性豊かな表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
- ・音楽と生活とのかかわりについて考え、音環境への関心を高める。
- ・楽曲固有のよさや美しさを味わい特徴について理解を深め、文化的・歴史的背景などを踏まえた広い視野で音楽を捉えることで、音楽文化への理解を一層深める。

2 育てたい生徒像

「音楽Ⅱ」では「音楽Ⅰ」の学習を基盤として、生涯にわたって音楽を愛好する心情をはぐくむことを重視したい。そのためには、音楽のよさや美しさを感じ取り、質的な価値を見出していくための感性を高めることを基礎として、一人一人が個性豊かに表現したり、主体的に味わって鑑賞したりできる能力を育てていきたい。表現、鑑賞にあたっては、生徒自らが感性を働かせて音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、さらにはそれらの要素と働きを理解して、思考・判断・表現できるようにすることで、これまで以上に豊かな経験が積み重ねられる。また、感性や知覚を通して音楽を認識する力が一層深まっていくと考えている。

また、音楽の文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉え、特に我が国や郷土の伝統音楽を取り上げて生徒自身と音楽とのかかわりに関心をもたせ、音楽文化の理解を深めたい。

3 授業の内容と学習方法

- (1) 独唱・斉唱から合唱まで多様な表現形態による歌唱を通して、日本語及び外国語の歌詞の内容や楽曲の文化的・歴史的背景、曲種に応じた発声の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して、個性豊かな歌唱表現をする。
- (2) 我が国及び郷土の伝統音楽や世界各地の諸民族の音楽の特徴を知り、音楽のよさや美しさなどの特徴について理解を深める。
- (3) 個性豊かな表現をするために必要な器楽（和楽器やリコーダー、ギター、ハンドベルなど）の奏法を身に付ける。また、独奏、重奏や合奏、声や楽器を組み合わせた表現、身体表現など様々な表現形態で学ぶ。
- (4) 表現したい音楽のイメージをもって音を出しながら、その音の質感を感じ取り、音楽を形づくっている要素とその働きを理解しながら、音楽へと構成していけるよう創造的に創作する。
- (5) 演奏形式による楽曲の特徴の違いを学んだり、舞台芸術作品を鑑賞したり表現活動を行ったりして、音楽表現の多様性や美しさに気づき、それらを育んだ文化や他芸術との関連を踏まえて主体的に鑑賞する。
- (6) 音楽を形づくっている諸要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それらが楽曲をどのように特徴づけているのかについて理解し、思考・判断して創造的な表現、主体的な鑑賞を行う。

Tutti II 改訂版 年間指導計画・評価規準例

[illegible]